

難治性疾患克服研究の対象となっている 121 疾患について

主任研究者；尾崎 承一

疾患名；バージャー病

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について（特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。）

（1）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	昭和 53 年度 塩川優一	バージャー病と HLA	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

（2）発生机序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	平成 17 年 尾崎承一	血管炎アトラスを作製して病理と臨床所見を検討した。	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成3年度 田辺達三	尿中コチニン測定による喫煙チェック	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成3年度 田辺達三	尿中コチニン測定による禁煙の励行	
2	平成14年度 尾崎承一	自己骨髄細胞移植治療により、パージャーマ病の臨床症状の著明な改善、血流の増加、QOLの著明な改善を認めた。	
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

ウ その他根本治療の開発について

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1			
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1	平成 17 年	歯周菌の関与	J Vasc Surg 42:107,2005
2			
3			

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1	平成 3 年度	患者に対する禁煙指導の徹底	
2			
3			

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1	平成 3 年度	患者に対する禁煙指導の徹底	
2			
3			

ウ その他根本治療の開発について

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

3.現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1)原因の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	発症トリガーはなにか 歯周菌による可能性あり	あり	臨床データ収集 動物モデル作成
2			
3			

(2)発生機序の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	発症トリガーはなにか 歯周菌による可能性あり	あり	臨床データ収集 動物モデル作成
2			
3			

(3)治療法(予防法を含む)の開発

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	重症虚血肢に対する HGF 遺伝子治療	あり	臨床治験遂行中
2	自己骨髄細胞移植治療	あり	臨床試験の継続
3			

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法（重症化防止のための治療法）の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	5年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1	社会および患者に対する禁煙等の啓発活動	あり		医育機関、医療機関における教育
2				
3				
4				
5				